■国連ハイレベルウィーク学生派遣

■2019年9月22日〜28日（ニューヨーク・マリオット・イーストサイド他）

■参加者

学生4名、サイドイベント参加者（茂木外務大臣・元フランス外務大臣をはじめとした各国代表団、JICA、UNICEF、UNDP、OECD、UNDESA、ストップ結核パートナーシップ、Gaviなどの国際機関、企業等）

■内容

革新的資金調達に関するリーディング・グループのサイドイベント等に日本から学生4名が参加した。これは、派遣された学生の報告書である。学生4名は、『ユニバーサルヘルスカバレッジと感染症』『SDGs達成のための革新的資金調達に関するハイレベル会合』『行動喚起：SDGs進捗をリードする多次元貧困指数』『インパクトを加速するための、SDGsの規模拡大に基づく資金調達への投資』といったイベントに出席し、質問することによりその議論に参加した。

学生4名から「ユニバーサルヘルスカバレッジと感染症のセッションへは、分野横断型といいながら保健セクターからの参加しかなかった。また、市民社会からの参加がなかったというのは問題ではないか」「国際連帯税の応用が、長期的に持続可能な革新的資金調達となり得るのではないか。SDGs資金をただの寄付で終わらせないためにも、その使徒を慎重に考えるべき」「国際協力の内容についてデータを活用して話し合いを行う意義に気付かされた」「世界の多くの国々がSDGs達成のために様々な行動をとっていることが分かった。しかし、議論に具体性がなかった」「議論にあったように、成功した政策のマッピングを取り入れるべきだと感じた」「SDGsに対する投資はすべて成功するとは限らず、むしろリスクが大きいということが分かった」「企業とNGOの連携などについて今後研究していきたい」「繰り返し叫ばれた『行動していかなければならない』という言葉に深く共感した」「日本のSDGsの認知度は他国と比較して非常に低い。特に若年世代において高めていかなければならないと強く感じた」といった感想が寄せられた。